

## 世界で一番ステキな

### あめ玉

小六

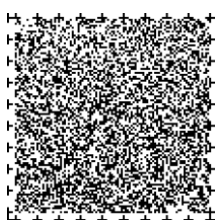
私のお母さんは、老人ホームで働いています。お母さんの働いている老人ホームは特別養護老人ホームといって、特に介護を必要とする人のための施設です。

そこに、Aさんという知的障害のある方がいました。Aさんは、あめ玉が大好きで、いつもなめています。ある土曜日、私がお母さんの手伝いで老人ホームに行くと、Aさんがここにこしながらみんなの使うタオルやエプロンをたたんでいたのので、私も、そ

のお手伝いをしました。Aさんは、慣れない手つきの私に、やさしく、ていねいに教えてくれました。

その日から私は土日になると、Aさんに会うためにお母さんといっしょに老人ホームに行くようになりました。Aさんは、私が行くたびに、「楽しみにしていたんだよ。」とにこにこしながら色とりどりのあめ玉をくれました。

私が五年生の時、友達のBさんにいじめられて、泣きながら老人ホームへ行くと、とびっきりの笑顔とあめ玉で私をなぐさめてくれました。私は、その時Aさんに言われた言葉を今でも覚えています。「この障害のことで何か人に



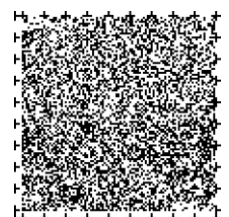
言われても自分は四つ葉のクローバーを持っていてから、いつか絶対に幸せがやってくるって思っているの。」

Aさんはそう言うてにっこりしました。それは、Aさんが私に見せた最後の笑顔でした。Aさんは、平成二十三年六月、肺炎のため、眠るように息を引き取りました。Aさんのおそう式の日、私は、ひつぎの中にAさんの大好きだったあめ玉と、手紙を入れ、Aさんを見送りました。その後、Aさんの荷物を片づけるために、引き出しを開けると、そこには、私あての手紙と四つ葉のクローバーのストラップ、そして、大好きだったあめ玉が入ったふうとうがありました。手紙には、

「大好きだったBちゃん、私は四つ葉

のクローバーになりました。でも、いつまでもBちゃんのことを見守っているよ……。」

と書いてありました。言葉は人の心を救ったり、きずつけたりします。私はあめ玉をくれたAさんの言葉に救われました。最近、障害者や高れい者への差別、いじめなど相手の人権を無視した問題が多く聞かれます。私はあめ玉をくれたAさんのように、相手を思いやる心をもった人が多くなればこのような社会問題も減り、みんなが安心して楽しい生活を送れるようになると思います。だから、私は、他人をきずつける言葉ではなく、Aさんのように、思いやりのある一言で友達を元気づけられる人になりたいと思



います。

Aさんからもらったあめ玉は、どんなあめ玉にもかなわない私の一番大切な、そして、一番すてきなあめ玉です。

